

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 4 月 26 日現在

機関番号：11401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720227

研究課題名(和文) 実践研究理論構築のための調査研究－実践と教育制度との関係をはかりに－

研究課題名(英文) Language selection and identity of learners of Japanese language in abroad

研究代表者

市嶋 典子 (ichishima, noriko)

秋田大学・国際交流センター・准教授

研究者番号：90530585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本語教育における実践研究の問題を、文献調査と日本語教師および学習者へのインタビューの分析を通して考察した。文献調査においては、1968年から2010年までの42年間に学会誌『日本語教育』に掲載された「実践研究」論文を調査し、各々の実践の中で、教育観、言語能力観いかに意味付けられてきたのかの内容分析を行った。また、日本語教師にインタビューを行うことによって、日本語教師の実践研究観を明らかにした。本研究により、日本語教育において、言語能力観や教育観が生成され、変容してきた背景と経緯はいかなるものか、そこにはどんな問題があるのかを考察した。

研究成果の概要(英文)：This study focused on the issues on practical studies at Japanese language education through literature review and analysing interviews of Japanese language teachers as well as learners.

The applicant examined research papers about practical studies published in Journal of Japanese Language Teaching in 42 years from 1968 to 2010 as literature review, and conducted contents analysis how each practice implicated philosophies of education and linguistic skill. In addition, this study reveals the philosophy of Japanese language teachers on practical studies through interviews to them. Overall, this study explained the background and the process of how philosophies of education and linguistic skill have been developed and transformed, and identified what kind of problems have arisen there.

研究分野：日本語教育学

キーワード：実践研究 言語教育観 言語能力観 対話

1. 研究開始当初の背景

日本語教育においては、1990 年以降、実践研究の重要性が指摘されるようになってきた。実践研究は、1990 年代後半から、教師の成長、内省をうながすものとして意義付けられ、2000 年以降、実践研究の記述方法と評価はどうあるべきかが議論されるようになっていった。2004 年には、教師が自身の実践を公開する「発表者主体の参加型討論の場」として「実践研究フォーラム」が開始された。また、日本語教育学会発行の学会誌『日本語教育』は、2005 年の 126 号で「特集「日本語教育の実践報告 - 現場の知見を共有する - 」」という特集を組み、実践研究の問題を取り上げている。

この流れに伴って、各地で様々な実践報告会が活発に行われるようになっていった。一方、このような実践報告会においては、教育技術ばかりが目される傾向にあることが問題視されてきた。また、日本語教育においては、実践研究とは何かという議論は、必ずしも十分になされておらず、研究領域としての位置づけが明確にされてこなかった。さらに、日本語教育における実践研究について論じた先行研究の多くは、理念的、理論的な観点で主張されたものが多く、実践研究を行う主体としての日本語教師の認識そのものは、全く扱われてこなかった。さらに、実践研究の問題を、教育制度や教室の外の社会との関係にまで踏み込んで考察したものは少ない。

2. 研究の目的

本研究では、実践研究の問題を、社会的な文脈や制度と関連付けて考察し、そこにどのような構造が隠されているのかを明らかにし、新たな実践研究の理論的枠組みを構築することを目的とした。

日本語教師へのインタビューからは、彼女ら、彼らが実践と制度との関係をどのように受け止めているのか、教室内外のどのような経験によってその考えは形成され、また変

容しているのかということを明らかにした。また、授業観察から、彼女ら、彼らの実践内容や教育観が組織や制度、地域社会、学習者の学びとどのような関係を持っているのかを考察した。また、文献調査により、日本語教育において、実践研究がどのように位置付けられてきたのかを明らかにした。その上で、新たな実践研究理論の構築を目指した。

3. 研究の方法

本調査研究は、先行研究を踏まえながら、以下の三つの研究方法を用いて国内外の大学で行われている実践および実践研究の実態を調査し、日本語教育における実践研究の理論的精緻化を目指した。

- (1)文献調査では、各大学の紀要および、日本語教育学会、国際交流基金、国立国語研究所発行の論文集に掲載されている全実践研究論文の内容分析をし、日本語教育における実践研究の歴史的変遷、問題点を明らかにした。
- (2)インタビュー調査では、日本語教師と学習者にインタビューを実施し、教室内外での教育、学習環境や、教育観、学習観、言語観、言語能力観を詳細に問うた。
- (3)日本語教師の担当授業を参与観察し、実践の実態を把握し、(1)(2)と関連付け、考察した。

4. 研究成果

本研究では、日本語教育における実践研究の問題を、文献調査と日本語教師および学習者へのインタビューの分析を通して考察した。文献調査においては、主に 1968 年から 2010 年までの 42 年間に学会誌『日本語教育』に掲載された「実践研究」論文を調査し、各々の実践の中で、教育観、言語能力観いかに意味付けられてきたのかの内容分析を行った。また、日本語教師にインタビューを行うことによって、日本語教師の実践研究観を明らかにした。本研究により、日本語教育において、

言語能力観や教育観が生成され、変容してきた背景と経緯はいかなるものか、そこにはどんな問題があるのかを考察した。

具体的には、実践研究に携わる教師に対するインタビュー、授業観察を行い、どのような教育環境のもとに実践をデザインし、制度や社会状況と自身の実践との関係をどのように意味づけ、何を契機にそのような意識を持つに至り、現在、いかなる教育観の中でそれを維持しているのか分析した。また、日本語教師へのインタビューのみならず、実践に参加する学習者へのインタビューも試みた。本調査を通して、教師や学習者は、社会や制度の縮図ともいえる教室において、いかなるディレンマの解決と調整を通して、どのような実践活動を形成しているのか、そして、様々な制約は、教師の実践、思考、意識にどう影響を及ぼし、学習者の学習、思考、意識にいかんにか反映されているのか、これらの関係を読み解き、再構築を目指す実践研究はどのような条件において可能なのかを考察した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

市嶋典子、シリアの日本語教師・学習者の市民性形成過程についての一考察、秋田大学国際交流センター紀要、査読有、5巻、2016、1-20

<http://hdl.handle.net/10295/3024>

市嶋典子、評価活動において教師と学習者はいかに合意形成のプロセスを生成するのか、秋田大学国際交流センター紀要、査読有、4巻、2015、1-13

<http://hdl.handle.net/10295/2767>

市嶋典子、農業従事者と留学生の接触場面に關する一考察 農業体験活動における調整行動に注目して、秋田大学国際交流センター紀要、査読有、3巻、2014、1

- 13

<http://hdl.handle.net/10295/2370>

市嶋典子、学習者はどのように評価基準を構築したか、秋田大学国際交流センター紀要、査読有、2巻、2013、25-37

<http://hdl.handle.net/10295/2209>

市嶋典子、日本語教育における評価研究の変遷と課題 制度が規定する評価から、実践を起点とした評価、思想としての評価へ、言語文化教育研究、査読有、11巻、2013、112-133

<http://alce.jp/journal/vol11.html#ichishima>

[学会発表](計4件)

市嶋典子、紛争下における日本語教育の意義と課題、言語文化教育研究学会第2回研究集会、石川県政記念しいのき迎賓館、2015年6月21日

市嶋典子、平和構築と日本語教育 シリア人日本語教師の語りをしてがかりに、第26回日本沙漠学会学術大会25周年記念大会公開シンポジウム、秋田市：カレッジプラザ講堂、2015年5月23日

市嶋典子・工藤育子・細川英雄、パネルセッション：市民性形成とことばの教育(3) 活動評価から市民性形成へ、日本語教育国際研究大会2014、シドニー工科大学、2014年7月12日

細川英雄・市嶋典子・古屋憲章・武一美・三代純平、パネルセッション：実践研究とは何か 教育実践研究共同体構築の可能性、日本語教育国際研究大会名古屋2012、名古屋大学、2012年8月19日

[図書](計3件)

市嶋典子、実践者による「実践研究」に内在する当事者性の問題 「共在者」としての教師と学習者への注目、2015、館岡洋子(編)日本語教育のための質的研究入門 学習・教師・教室をいかに描くか、71-91、ココ出版

市嶋典子、ユニット3 私と異文化、2015、
館岡洋子（編）、協働で学ぶクリティカル・リーディング、63-81、ひつじ書房
市嶋典子、牛窪隆太、村上まさみ、高橋
聡、実践研究はどのように考えられてきたか 日本語教育における歴史的変遷
（第1部「理論編」第1章）、2014、細川
英雄、三代純平（編）、実践研究は何を
めざすか 日本語教育における実践研究
の意味と可能性、23-48、ココ出版

〔その他〕

ホームページ等

<http://ichishima.thyme.jp/>

6．研究組織

(1)研究代表者

市嶋 典子 （ ICHISHIMA,Noriko ）

秋田大学・国際交流センター・准教授

研究者番号：90530585